

朝日カルチャーセンター 新宿教室 シリーズ・女帝 呂后
2017年7月24日(月) 担当 加藤 徹 <http://www.geocities.jp/cato1963/>

古代中国の「悪女」は多い。中でも、漢の初代皇帝の妻であった呂后は、中国史上初の「悪女皇太后」であり、女性が絶対的な権力を手中にした最初の例となった。呂后本人も周囲の人々も、歴史に「悪女皇太后」の前例がなく、歴史から知恵や教訓を得ることができなかつたために、陰惨な事態を招いた。そもそも呂后は本当に「悪女」だったのか。歴史文献を精読し、「宗族」の視点から、東洋的な意味での「悪女」の誕生を考察します。(講師記)

ポイント

秦から前漢は「はじめてづくし」。歴史の前例がないため、みな試行錯誤した。
呂后は史上初の「皇后」「皇太后」で、女性の絶対権力者。
司馬遷は『史記』に「呂后本紀」(呂太后本紀)を立てた。
呂后の時代の漢の人口は推定二千万未満。人民にとっては暮らしやすい時代だった。

- 【宗族】そうぞく ①共通の先祖をもつ一族。一門。また、父方の一族。②中国の父系親族集団をさす語。(大辞林 第三版)
- 【外戚】がいせき 母方の親戚。げしゃく。↔ 内戚(ないしゃく) (大辞林 第三版)
- 【前漢】ぜんかん 中国古代の王朝。秦(しん)の滅亡後、前202年、楚の項羽を破った漢王劉邦(りゅうほう) (高祖) が建国。都は長安。中央集権体制が確立された武帝のときに全盛期を迎えた。8年、王莽(おうもう)によって倒された。西漢。(デジタル大辞泉)
- 【高祖】こうそ 中国、皇帝を太廟(たいびょう)に祀(まつ)るとき追贈される廟号(びょうごう)の一つ。元来は5世の祖(曾祖父(そうそふ)の父)の称。太祖と並んで、おおむね王朝の創立者に贈られる。[尾形 勇] (日本大百科全書(ニッポニカ))
- 【劉邦】りゅうほう (前247～前195) 中国、前漢初代皇帝(在位 前202～前195)。廟号(びょうごう)は高祖。江蘇省沛(はい)の農民の出身。秦末に陳勝・呉広に続いて兵を起こす。項羽軍と連合して秦と戦い、項羽に先んじて関中に入って、秦の都咸陽を占領。前202年項羽を垓下(がいか)の戦いで破り天下を統一。都を長安に定め、帝位についた。郡国制を敷き、一族・功臣を分封して王とした。(大辞林 第三版)
- 【陳平】ちんぺい [?～前178] 中国、前漢初期の政治家。陽武(河南省)の人。諡(おくりな)は獻侯。漢の高祖(劉邦)に仕え、恵帝のとき左丞相となり、周勃(しゅうぼつ)と力を合わせて呂氏の乱を平定した。(デジタル大辞泉)
- 【良平】りょうへい 知謀をもって劉邦に仕えた漢の創業の功臣、張良と陳平。転じて、知略にすぐれた人(大辞林 第三版の解説)
- 【左×袒】さ-たん [名] (スル)《「袒」は衣を脱いで肩をあらわにする意で、中国、前

漢の功臣周勃(しゅうぼつ)が呂氏(りよし)の乱を鎮定しようとした際、呂氏に味方する者は右袒せよ、劉氏(りゅうし)に味方する者は左袒せよ、と軍中に申し渡したところ全軍が左袒したという「史記」呂后本紀の故事から》味方すること。(デジタル大辞泉)

○【本紀】ほんぎ 紀伝体の歴史の分類の一。帝王一代の事跡を記したもの。→ 世家(せいか)・列伝(大辞林 第三版)

○【呂后】りょこう (?～前 180) 前漢の高祖(劉邦)の皇后。高祖が沛(はい)の亭長であったとき妻となり、その天下統一を助けた。高祖死後、政権を独占した。→ 呂氏の乱(大辞林 第三版)

○【呂氏の乱】りよしのらん 前漢の初め、高祖の死後皇后呂后が、一族を重用して漢朝を呂氏一族でほしいままにしたため、紀元前 180 年呂后が死ぬと、高祖の遺臣や劉氏一族が呂氏一族を全滅させた事件。(大辞林 第三版)

○【呂后】りょこう (?～前 180) (1)中国、前漢の高祖劉邦(りゅうほう)の皇后。名は雉(ち)、字(あざな)は娥(がく ★=[女句])。 (2)劉邦が沛(はい)の亭長時代に妻となった。 (3)楚(そ)・漢の抗争期には、父母や幼児盈(えい)(後の恵帝)とともに項羽軍に捕らえられるなどの苦難をくぐり抜け、紀元前 202 年劉邦の皇帝即位に伴い皇后となった。皇后の名が史書に記される初例である。 (4)高祖には 8 人の男子があり、呂后が産んだのは病弱な盈のみで、彼女は盈の皇太子の地位を守るために、他の夫人、王子を強く警戒した。 (5)前 195 年高祖が没し盈が即位して恵帝となると、呂后は高祖の諸王子を次々と殺した。高祖は生前、寵妃(ちょうき)戚(せき)夫人の子趙(ちょう)王如意(によい/じょい)を盈にかえて皇太子にすることを考えたらしいが、そこで呂后はまず如意を毒殺し、さらに、戚夫人の手足を断ち、眼球をえぐり、薬で聾啞(ろうあ)にし、廁(かわや)に投げ込んで人彘(ひとぶた)とよばせた。そのほか、淮陽(わいよう)王友(ゆう)、梁(りょう)王快(かい)、燕(えん)王建(けん)が非業の死を遂げている。 (6)恵帝が在位 7 年で嗣子(しし)なく没すると、後宮の女官が産んだ子を皇帝位につけ(少帝恭(きょう))、やがてこれも殺して、同じく後宮の子恒山(こうざん)王弘(こう)をたて(少帝弘)、自ら臨朝称制して政権を握った。 (7)呂氏一族を登用し、呂台(りょい)、呂産(りょさん)、呂禄(りょろく)などを王に封じ、南北軍を統御させて首都の兵力を手中に収め、劉氏政権が呂氏に制圧されてしまった。 (8)呂后が没するや乱を起こそうとした呂氏一族を、太尉周勃(しゅうぼつ)、丞相陳平(じょうしょうちんぺい)ら高祖の功臣たちがすばやく鎮圧し、呂氏は族滅させられた。[春日井明](日本大百科全書(ニッポニカ)の解説)

○【人彘】じんてい ren2zhi4

前漢の戚夫人(?～前 194 年?)、唐の簫淑妃(?～655 年 11 月 27 日)

Cf. 司馬遷『史記』呂后本紀第九 明治書院・新釈漢文大系

太后遂斷戚夫人手足、去眼暉耳、飲瘖藥、使居廁中。命曰人彘。居數日、酒召孝惠帝觀人彘。孝惠見問、酒知其戚夫人。酒大哭、因病、歲餘不能起。使人請太后曰、此非人所爲。臣爲太后子、終不能治天下。孝惠以此日飲、爲淫樂、

太后、遂に戚夫人の手足を斷ち、眼を去り耳を暉す、瘖藥を飲ませ、廁中に居らしめ、命けて人彘と曰ふ。居ること數日、酒ち孝惠帝を召して人彘を觀しむ。孝惠見て問ひ、酒ち其の戚夫人なるを知る。酒ち大いに哭し、因つて病み、歲餘、起つこと能はず。人をして太后に請はしめて曰く、此れ人の爲す所に非ず。臣、太后の子と爲り、終に天下を治むること能はず、と。

不聽政。故有病也。

孝惠、此を以て日に飲み淫樂を爲し、政を聽かず。故に病有るなり。

通釈

太后はいよいよ戚夫人の手足を断ち切り、眼球をくり抜き、耳をやいて聾となし、瘖藥を飲ませて啞にし、便所の中において「人彘」といった。そこに置くこと数日して、すなわち、孝惠帝を召してこれを觀させた。孝惠帝は見てもたずねてみて、やっとそれが戚夫人であることを知った。大声で泣き、そのために病氣になり、一年余りも起つことができなかった。そこで、人をやつて太后にいわしめた。「これは人間のすることではありません。しかも、戚夫人は、父が存命中に寵愛した人です。わたくしは太后の子として、とても天下を治めることはできません」と。こうしたこと、孝惠は毎日酒を飲んで、淫樂に耽り、政治を聴こうとしなかった。病氣になったのはそのためである。

○趙翼(1727-1812)『廿二史劄記』卷三より「呂后は武后ほど悪女ではなかった」

『廿二史劄記』(にじゅうにしさつき)は清の歴史家・趙翼の著。タイトルは「歴代の正史を読んだ感想の記録」の意。江戸時代の日本にも輸入され、頼山陽が序を書いた和刻本が刊行された。

ポイント

- a 世間では呂后と武后を並べて二大悪女と呼ぶが、公平ではない。(西太后は趙翼より後の時代)
- b 呂后は皇帝となったわが子・恵帝を盛り立てるため高祖の遺臣を用いた。
- c 呂后は恵帝が活着しているうちは、劉家を盛り立てようとした。
- d 呂后は嫉妬と恨みから戚夫人を殺したが、文帝の生母など他の元側室には寛大だった。
- e 劉友や劉恢が非業の死を遂げた理由は、それぞれの配偶者である呂氏との不仲。
- f 呂后は、呂氏と劉氏が代々の婚姻関係を通じて密接に結びつくことを願った。
- g 北魏の馮太后や胡太后、唐の則天武后は淫乱で、未亡人となったあと愛人を作った。呂后は夫の死後も愛人を作らなかった。呂后を武后と同列に論ずるのはおかしい。

【原漢文】 母后臨朝、肆其妒害、a 世莫不以呂、武並稱、然非平情之論也。武后改朔易朝、徧王諸武、殺唐子孫幾盡、甚至自殺其子孫數人、以縱淫慾、其惡爲古今未有。呂后則當高帝臨危時、問蕭相國後孰可代者、是固以安國家爲急也。b 孝惠既立、政由母氏、其所用曹參、王陵、陳平、周勃等、無一非高帝注意安劉之人、是惟恐孝惠之不能守業、非如武后以嫌忌而殺太子弘、太子賢也。后所生惟孝惠及魯元公主、其他皆諸姬子、使孝惠而在、則方與孝惠圖治計長久。觀於高祖欲廢太子時、后迫留侯畫策、至跪謝周昌之廷諍、則其母子間可知也。迨孝惠既崩、而所取後宮子立爲帝者、又以怨懟而廢、於是己之子孫無在者、則與其使諸姬子據權勢以凌呂氏、不如先張呂氏以久其權。c 故孝惠時未嘗王諸呂、王諸呂、乃在孝惠崩後、此則后之私心短見。蓋 d 嫉妒者、婦人之常情也。然其所最妒亦祇戚夫人母子、以其先寵幸時幾至於奪嫡、故高帝崩後即殺之。此外諸姬子、如文帝封於代、則聽其母薄太后隨之。淮南王長無母、依呂后以成立、則始終無恙。齊悼惠王以孝惠庶兄失后意、后怒欲酖之、已而悼惠獻城陽郡爲魯元湯沐邑、即復待之如初。其子朱虛侯章入侍宴、請以軍法行酒、斬諸呂逃酒者一人、后亦未嘗加罪也。e 趙王友之幽死、梁王恢之自殺、則皆以與妃呂氏不諧之故。然趙王友妃、呂產女；梁王妃、亦諸呂女；又少帝后及朱虛侯妻、皆呂祿女。呂氏有女、不以他適、而必以配諸劉、f 正見后之欲使劉、呂常相親、以視武后之改周滅唐、相去萬萬也。即其以辟陽侯爲左丞相、令監宮中、亦以辟陽侯先嘗隨后在項羽軍中、同患難、雖有所私、而至是時其年已老、正如人家老僕、可使令于閭闔間、非必尚與之昵。史記劉澤(傳)(世家)、太后尚有所幸張子卿、(漢書作張卿。)然如淳註謂奄人也、則亦非私褻之嬖、以視武后之寵薛懷義、張易之兄弟、恬不知恥者、更相去萬萬也。g 武后之禍、惟後魏之文明馮后及胡后約略似之、而世乃以呂、武並稱、豈公論哉。